

【こちら、地域おこし協力隊です】

余市町内の商工業をもっと元気にしたい！

「昨年度の1年間は、新型コロナウイルスに振りまわされ、観光PR事業はほとんどできませんでした。しかし、逆に町内に目を向けた仕事に取り組めたと思います」

こう話すのは、昨年4月に余市町で初めての地域おこし協力隊員に就任し、余市観光協会支援員として活動をしてきた**粕木勝巳**さん。1年間で自身が手がけた事業のうち、もっとも印象に残っているのは「余市助け愛テイクアウト」だ。

昨年4月の着任早々に、コロナ禍の影響で売上減少に悩む飲食店の支援策として、町内のオフィスや学校、事業所に昼食のテイクアウトを呼びかけた。飲食店の負担を減らすために、曜日ごとに担当する店舗とメニューを一覧表にし、2日前までに注文するシステムを整備。さらに、店まで取りに行くのが難しい事業所のために、1店舗あたり1回200円の負担でタクシーによるデリバリーも可能にした。

5月後半に2週間の試行期間を含め、6月から8月までの3カ月間で約3100食の利用があり、8月末の事業終了まで人気を博した。

粕木さんは「昼食は必ず町内の飲食店を食べ歩くことに決めています。助け愛テイクアウト事業も、食事をしながらお店の方々と『飲食店はコロナ禍で大変ですよ』と話をする中で生まれた事業です」と胸を張る。「また、この事業に協力してくれた飲食店が、新たに観光協会に入会してくれました。観光協会のスタッフとして嬉しいことでした。町内の商工業が元気じゃないと、町の活性化は生まれません。これからも皆さんと一緒に町を盛り上げていきたいと思います」と抱負を語る。



プレミアム商品券発売初日で行列する町民を安全に誘導

余市の魅力は、水辺の風景とおいしい食べもの

粕木さんは、生まれ故郷の宮崎県の川南町商工会勤務を経て、2017年に北海道砂川市に移住。砂川市でも地域おこし協力隊として、市内経済の活性化のために数多くの事業を手がけてきた。

そんな粕木さんに余市町の魅力を尋ねると、すぐに「風景と食べものです」との答えが返ってきた。「以前から、仕事や旅行で訪れる北海道には魅かれていました。特に、水辺の風景が大好きで、海も山も、おいしい果物もある余市町の地域おこし協力隊に採用されたときは、本当にうれしかった」と笑う。

昨年度は、「助け愛テイクアウト」のほかにも「余市町プレミアム商品券」の準備や販売の窓口担当、「GOTOイート」食事券利用店の申請補助など、コロナ禍ゆえの業務も多かった。一方で、大川小学校の児童とご当地スイーツ「あっぷりん」の商品化に向けたPRなどの協力をしたり、ゆるキャラ「ソーラン武士!!」のラインスタンプを制作したりと、今後の余市町の観光資源となる独自の事業も実現した。

粕木さんは「2年目となる今年度は、海も山もある余市の地の利をいかして、札幌からの誘客を焦点に活動したいと思っています」と笑顔をみせた。

（インタビュー：地域おこし協力隊
広報業務支援員
本間 朋子）



町内の官公庁や事業者が「助け愛テイクアウト」を利用



地域おこし協力隊2年目の活動をスタートした粕木さん

地域おこし協力隊 余市観光協会支援員

もみき かつみ
粕木 勝巳 さん

1965年、宮崎県生まれ。20代で(株)ソニーミュージックエンタテインメントに所属し、アーティストのPR業務やコンサート運営にかかわる。宮崎県川南町商工会、北海道砂川市地域おこし協力隊を経て、2020年から余市町地域おこし協力隊に就任した。休日に大好きな洋楽を聞きながらドライブするのが楽しみ。

**ソーラン武士!!
のスタンプできました。**
全24種類のポーズで
余市町を盛り上げます。

※ラインストア
「ソーラン武士!!」
で検索して下さい



**「余市町を楽しむシリーズ
企画」3作品公開中!**

※HTB北海道テレビ公式
YouTubeチャンネルで
「北海道余市町」を検索して
下さい。